



2024年10月31日

各 位

会社名 株式会社イーグランド
代表者名 代表取締役社長 林田光司
(コード番号：3294 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役 管理部門担当 白惣考史
(TEL. 03-3518-9779)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、2024年10月31日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて、当社の現状を分析し、今後の取組み方針について決議いたしましたので、お知らせいたします。内容につきましては、添付資料をご参照ください。

以 上

資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応について

株式会社イーグランド
(証券コード:3294)

現状認識

- 当社の株主資本コストは8~10%程度と推測(CAPM推計値)
- 20/3期以降、ROEは株主資本コストを上回るが、PBRは1倍を下回っている現状
直近のROEは22/3期18.7%、23/3期17.9%、24/3期11.8%と不安定
→ ROEは、安定的に12%以上を維持するとともに、更なる改善余地が存在すると認識
- PERは22/3期以降改善傾向にあるが、PBR1倍達成には更なる向上が必要
→ 当社の成長性について更に理解を得ることが課題



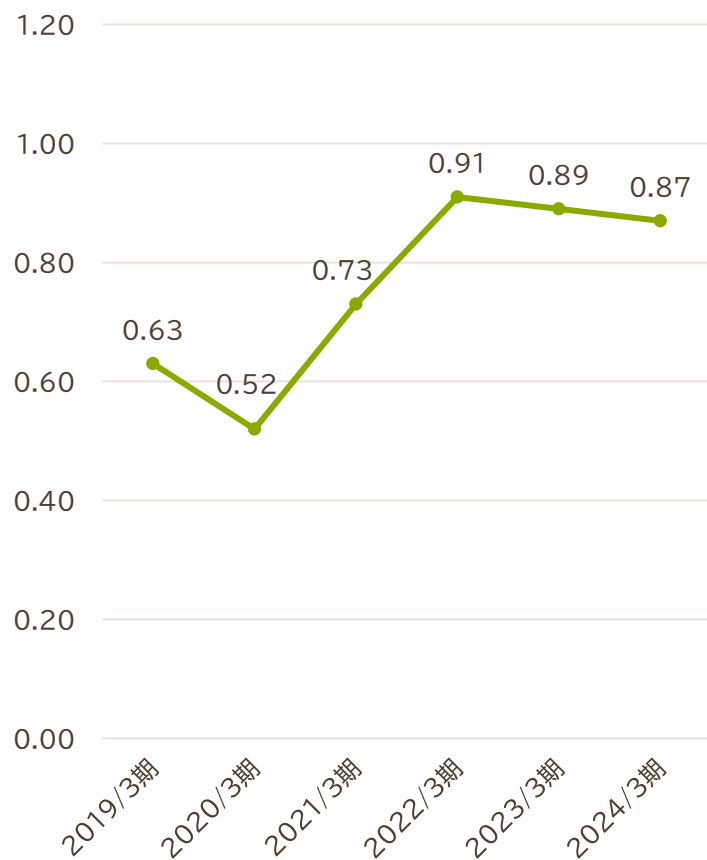
改善に向けた方針

- 第3次中期経営計画の目標に加えて+ α の取り組みを推進し、ROEの更なる改善および中長期の成長を目指す
→ + α の取り組みとして、自己資本比率30%を限度に財務レバレッジを積極的に活用した投資を行い、中長期の成長機会を確保
- ROEと連動した役員報酬制度の継続導入による経営陣のコミットメント強化
→ 27/3期ROE12%以上が解除要件の譲渡制限付株式報酬を導入
- IR/SR活動の更なる強化

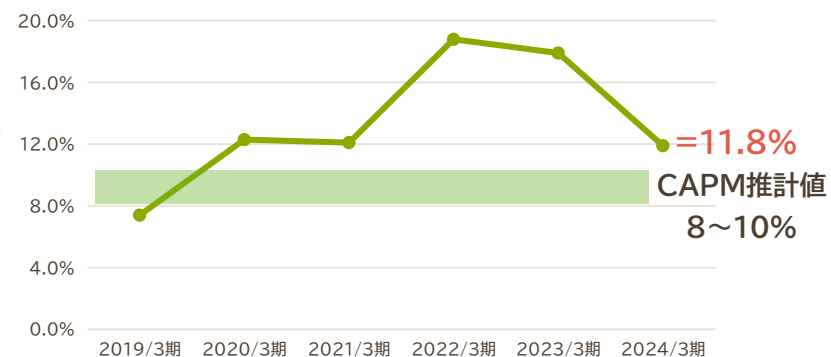
現状分析

- ROEは改善しているもののPBR1倍割れが継続
- ROE12%以上の実現とPERの向上が課題と認識

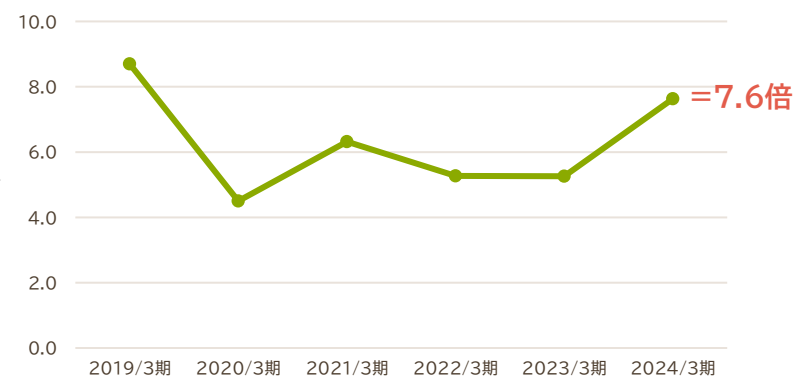
PBR推移



ROE推移



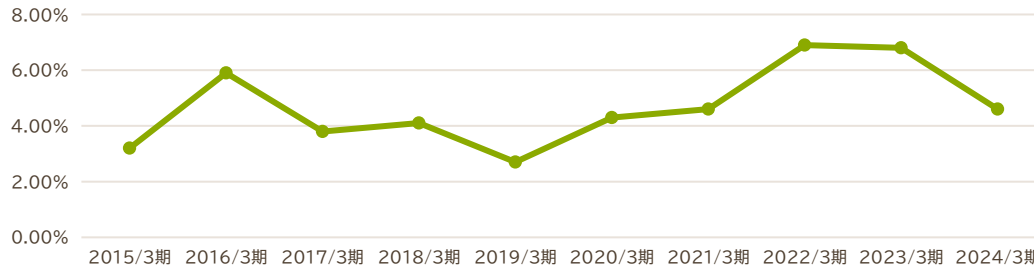
PER推移



ROEの改善に向けた取り組み

ROE12%は最低限実現すべき数値と位置付け、12%以上を目標に設定

当期純利益率

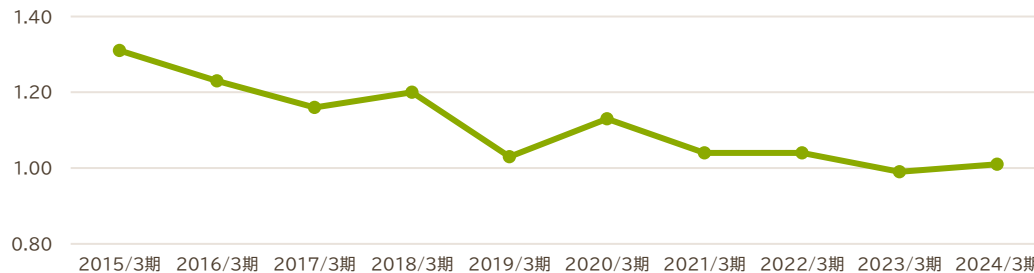


目標値:4.5%

主な取り組み内容

- 中計の実行
 - 中古再販事業の既存エリア深耕
 - 収益再販事業の拡大 等

総資産回転率

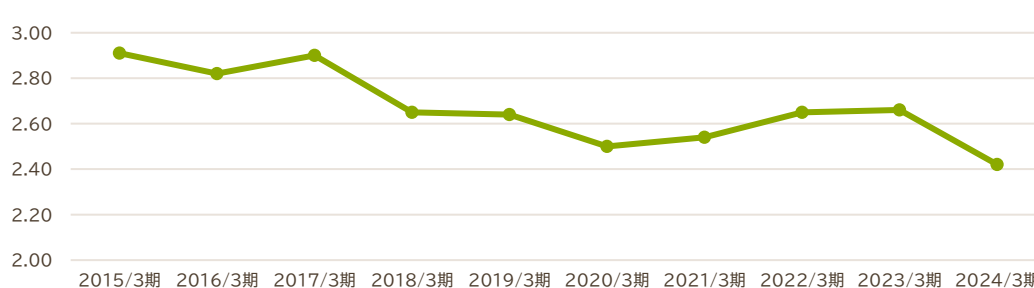


目標値:1.1

主な取り組み内容

- 物件仕入～売却までの期間短縮
 - リフォーム内製化の推進
 - 販売ルールの再徹底

財務レバレッジ



目標値:2.6

主な取り組み内容

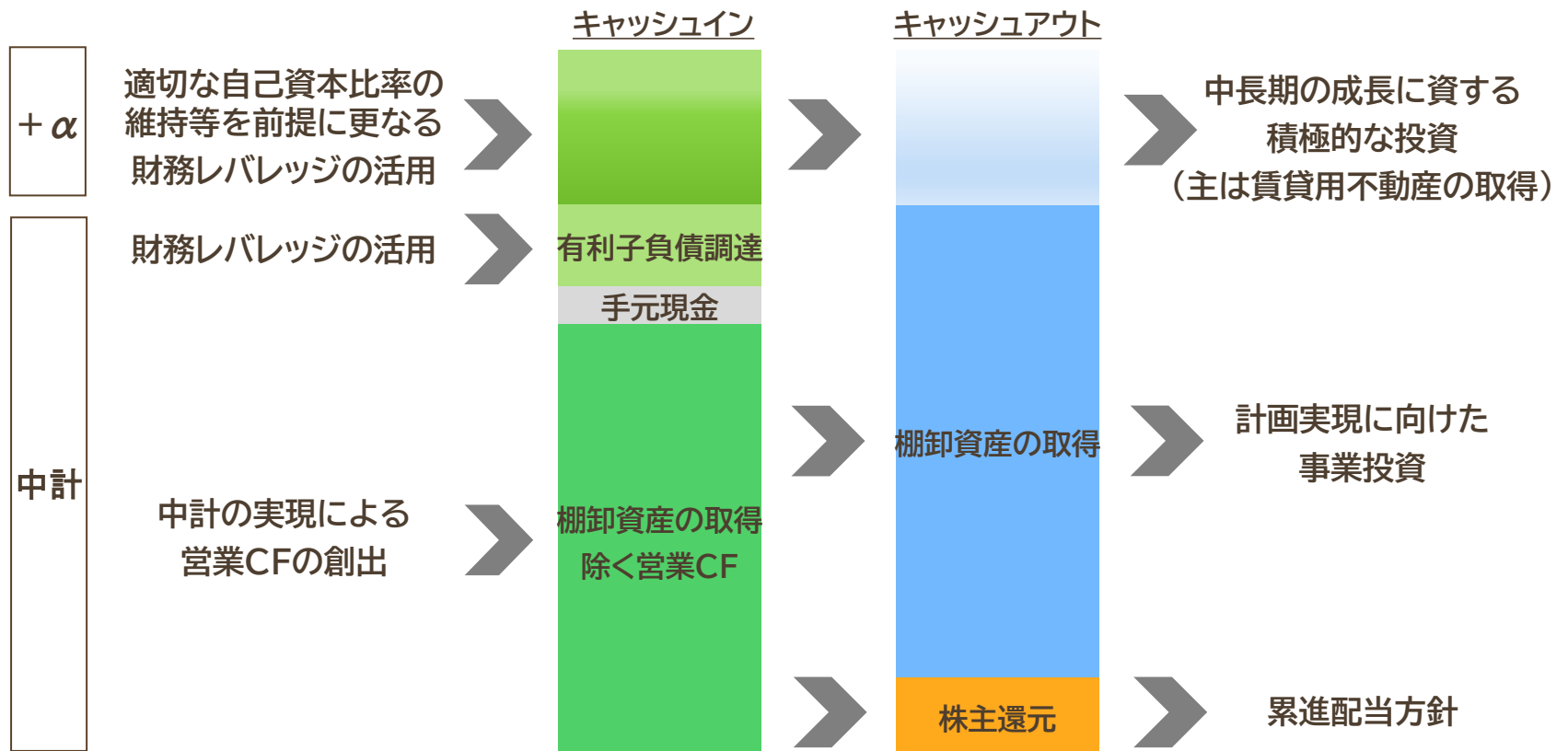
- 財務レバレッジの更なる活用
- 財務規律を設計することによる財務健全性の維持

+αの取り組みイメージ



- 第3次中期経営計画の実現を目指すとともに、+αの取り組みとして、自己資本比率30%を限度に、財務レバレッジの更なる活用により積極的な投資を行い、中長期の成長機会を確保

第3次中期経営計画(3か年累計)および+αの取り組みに関するキャピタルアロケーションイメージ



IR/SR活動の更なる強化



- 検討中の内容含め、以下の取り組みを進めることで、IR/SR活動を強化し、PBRの改善を促進

	継続推進中の取り組み	今後実施予定の取り組み
体制の強化	<ul style="list-style-type: none">■ 管理部門担当取締役をIR担当責任者とした体制整備■ IR人員の増強	<ul style="list-style-type: none">■ 各部署との連携強化<ul style="list-style-type: none">- 更なる情報発信・共有の実施
開示資料の充実	<ul style="list-style-type: none">■ IR資料の新規開示<ul style="list-style-type: none">- 資本コストや株価を意識した経営に関する開示	<ul style="list-style-type: none">■ IR資料の強化<ul style="list-style-type: none">- サステナビリティ関連の取り組み強化および取り組みの開示■ Webサイトのリニューアル
株主との積極的な対話	<ul style="list-style-type: none">■ 機関投資家向け決算説明会 年2回の実施■ 個人投資家向け会社説明会 年1回の実施	<ul style="list-style-type: none">■ 1on1mtgの積極的な実施■ 株主アンケートの定期的な実施■ 株主・投資家からの質問およびアンケート結果の分析、取締役会への共有とフィードバック